

< その他、取組に特徴のある事例 >

○ ボランティアとの連携で集落の存続・活性化を目指す

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	新潟県十日町市 池谷 とおかまちし いけたに			
協 定 面 積 16.2ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交 付 金 額 337万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員報酬		1%
		農道・水路整備		36%
		農用地の維持管理費		9%
		会議・研修会費用等		4%
協 定 参 加 者	農業者 10人、(有)花水農産(構成員25人)、NGO法人JEN			

2. 取組に至る経緯

当集落は、十日町市の市街地から北東約7kmに位置し、谷が随所に深く入り込み、急な斜面に住宅や農地が存在する。現在は、6戸の小規模・高齢化集落(うち非農家1戸)であり、集落外から5戸が通い農業をしている。そこで、集落内に残った農家を中心に、営農活動の維持と生活基盤の整備を目指し、集落協定を締結した。

3. 取組の内容

当集落は、平成16年の新潟県中越大震災で農地や農道・水路が大きな被害を受けたが、この地震がきっかけとなり、被災地の支援を行うNGO法人「JEN」の協力で、冬の雪降ろし作業支援から、農地の復興や農作業を手伝うボランティアとの連携が始まった。現在では農作業や集落内の共同作業だけでなく、体験農園や自然観察会なども実施している。さらに、ボランティアのために集落内の廃校を宿泊施設に改修し、長期間滞在できる体制を整え交流を続けている。

また、隣接する入山集落との間に「地域おこし実行委員会」が結成され、ワークショップ等を通じて海外の人も含めた都市住民との交流を深めており、地域の活性化につながっている。

営農体制においては、第2期対策より集落外の生産法人が集落協定に加入したことで、機械・農作業共同化が図られ、高齢化等により個人の営農が困難になった場合は、作業を委託できる体制が整備された。



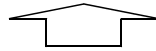
ボランティアとのブナ林への道路整備



ボランティアとの雪降ろし

[集落の将来像]

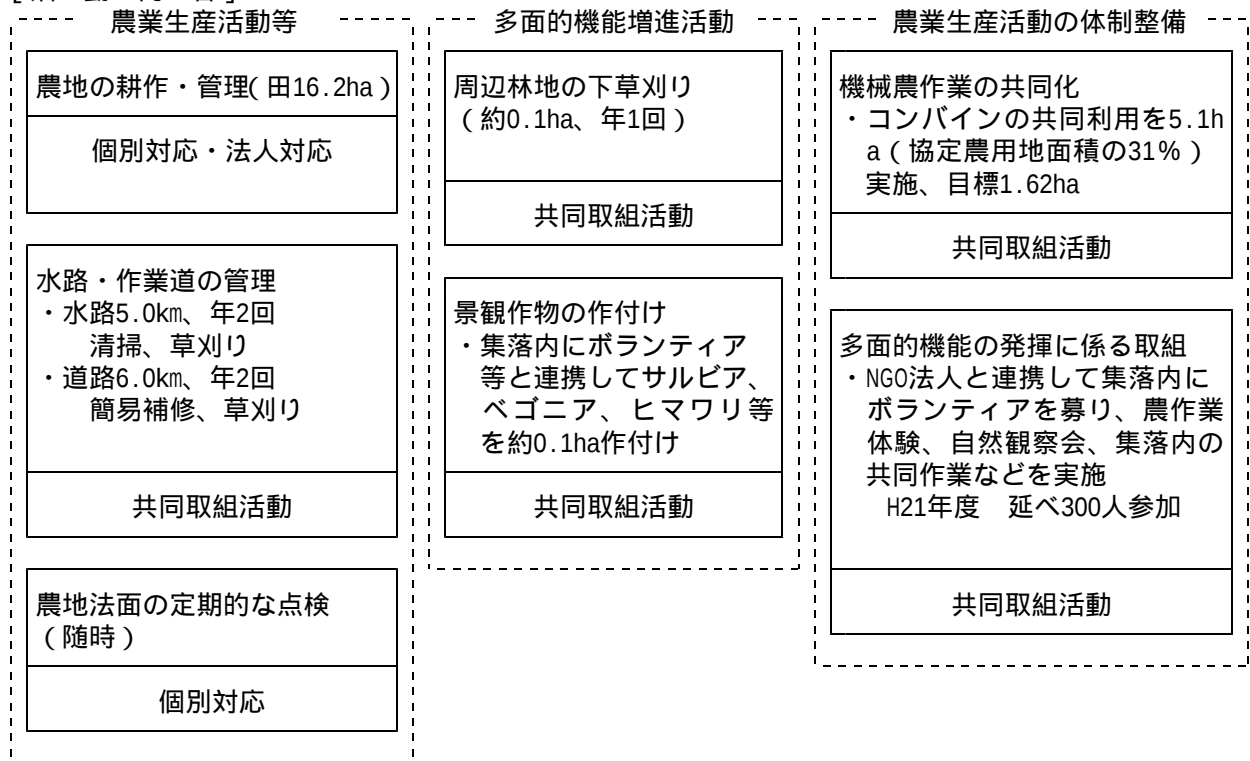
- 協定参加者間で助け合いながら、集落の存続と営農活動を営むことが前提であるが、将来的に営農が困難になった場合は、集落外の担い手（生産法人等）に委託等をして農地を守る体制作りを目指す。
- 集落にはブナ林等の豊かな自然もあり、NGO法人を介したボランティアとの連携が定着しつつあることから、都市住民が定住したくなるような地域づくりを目指す。



[将来像を実現するための活動目標]

- 震災からの農地等の復旧 ・都市住民との交流 ・環境整備（農道・水路・ブナ林への道路）
- 営農組織の育成（機械・農作業の共同化）

[活 動 内 容]



集落外との連携

- 入山集落との間に「地域おこし実行委員会」を設立。都市住民とのワークショップ等を開催

4 . 取組による変化と今後の課題等

現在は交流をきっかけに「人が人を呼ぶ」状況となり、「地域おこし実行委員会」でワークショップの開催や農作業体験などの交流事業を企画・実施している。

また、米の付加価値を高めるために直販にも取り組んでおり、こちらも口コミやインターネット販売の効果で、需要に供給が間に合わない程になりつつある。

[平成21年度までの主な成果]

- 機械・農作業の共同化（コンバインによる稲刈り）(当初0ha、目標1.62ha、H21実績5.1ha)
- NGO法人と連携して保全活動や自然観察会等の啓発イベントを実施
延べ参加者数（150名(H18)、150名(H19)、200名(H20)、300名(H21)）